

令和4年度第2回兵庫県建設業育成魅力アップ協議会 議事録

日時：令和4年11月28日（月）14：30～16：30

場所：神戸市教育会館 404号室

【議事(1) 令和4年度事業状況報告について】

- ・事務局より、令和4年度 事業取組状況についての報告があった。

【議事(2) 各団体からの資料説明】

・「建設業界ガイドブック」を10月末時点で約5万部配布しております。全国の工業高校等200校の2年生を対象に1万8千部、人材協加盟の団体にも年度当初に無料で配布しております。また建設業を紹介するのに非常にまとまった内容で好評なことから、個々の業者にも1部100円で販売しております。

・国土交通省実施の「こども霞ヶ関見学デー」に協力しており、毎年屋内・屋外それぞれの用意しておりますが、今年度は屋外のイベントのみ実施しました。2日実施予定でしたが、雨天の影響で1日のみ実施となりました。

・今年度の「作文コンクール」では、857人の応募がありました。例年1,000件を超える応募がありましたが、今年度は普段お願いしている工業高校が新型コロナウイルス明けで行事が立て込んでおり、応募が出来なかったといった話を伺っております。

・国土交通省事業の「学校キャラバン」では、各地方整備局持ち回りで出前講座を実施しており、今年度は中国地方整備局で実施を予定しております。

・今年度新たに「建設人材育成優良企業表彰」を創設し、206社の応募がありました。最終的に、大臣賞が3、局長賞が4、優秀賞が13の計20社の建設企業に表彰させていただきました。特にキャリアアップのレベル別に給与水準を設けていたり、全工事現場にキャリアアップのカードリーダーを設置している企業には高い評価が与えられております。今年度は初めて実施するため、8項目について自由筆記という形で募集させていただきましたが、企業によっては非常に多くの資料を提出されたりしたため、予定していたより選定に時間を要しました。そのため来年度表彰分からは、自由筆記という形ではなく、今年度の応募で見えてきた共通項目に基づいてフォーマットを作成し追加で補足資料を提出していただくという形で募集を予定しております。

・建設産業女性定着促進事業についてですが、現在全国で45団体が建設産業女性定着支援ネットワークに登録しております。まだ21の道県で加入いただけていないため、建設業協会を通じて全県に協力をお願いしているところであります。

・建設産業女性定着支援ネットワークでは、ブロック意見交換会や女性定着に向けた取組を実施している企業に対して助成等を行っております。近畿等ブロックでは、1月12日（木）にWEBで意見交換会を実施予定にしており、登録されていない団体様に参加いただけますので気軽にご参加いただければと思います。

・登録基幹技能者は今期3団体が新たに加入されました。

・その他の事業では、育成支援事業として未就業者の方に訓練と資格の取得をしてもらい、就職あっせんを行う事業を実施しております。今年は3年事業の最終年となっておりますが、厚生労働省において来年度の予算確保が公言されましたので、単年度の入札となりますが建設業振興基金としては受注を目指し、来年度の事業実施できればと考えております。

・建設業振興基金では、「活性化助成金」という制度があり、建設業の人材確保・育成や経営基盤強化に取り組んだ150の建設業団体に年間2億円の枠でご利用いただいております。ここ2年は新型コロナウイルスの影響でイベント等が中止になっておりましたが、今年度は順調にイベント等が実施されていることもあり、来年度は年間2億円の枠を増額する形で検討しております。

・建設キャリアアップシステムですが、今年10月によろやく登録技能者100万人を突破しました。100万人突破を機に、建設業振興基金からの直接働きかけたものも含めて、CCUSカードを提示していただくことで、様々な民間企業で特典が得られるようになっております。

・第1回協議会でも報告させていただきましたが、6月6日に県立上郡高校で一日体験セミナーを実施致しました。また参考までにですが、大阪府や奈良県の建設業協会でも同様の事業を実施しており、夏休みに工業高校生を受け入れております。

・建設労働者育成支援事業についてですが、国予算事業を建設業振興基金がオールジャパンの包括受託者として3年間実施してきました。内容は、各地域の専門役が参加者を公募し、応募者は三田建設技能研修センターで講習、就職あっせんまで行うワンパッケージとなったものです。来年度の予算の道筋が立ったと聞いておりますので、是非とも建設業振興基金に包括受託者になっていただき、来年度も同様に事業を行っていきたいと考えております。また今年度は例年実施の空調衛生工業協会による「はじめての建築設備コース」と「建設業入職コース」の計2コースを実施しました。

・社会人基礎研修では、西日本建設業保証株式会社に支援していただき、管轄内の建設業協会所属の企業に入職した方を対象に、ビジネスマナー等社会人の基礎を身につけてもらうための講習を実施しております。兵庫県においては、6月に建設業協会加盟の企業から26名が受講し研修を行いました。

・一般的に離転職が多い入職3～5年を対象に、学び直しを図ってもらおうとリカレント研修を実施しております。様々な講習がありますが、全体を通して学んでいただくこともできますし、必要なところをピックアップして部分的に受講することも可能となっております。

・建設業入職者長期研修では、建設系の学校を卒業していない建設業の新規入職者を対象に、建築コース、土木コースに分けて建設業の基礎について学んでいただくコースになっております。これまでは半年かけて週1回ペースで計24回実施しておりますが、新入社員が週1回研修のために時間を割けるのか、但馬など遠方からの受講者がいるといった観点から、来年度は5～6月に集中して研修を行う形で検討しております。

・若手技術者実務研修は例年11月頃に実施しており、年齢制限等は特にありませんが入社1年目の社員に参加いただいております。土木技術コースと建築技術コースがあり、建築技術コースは毎年多数の応募があるため2回実施しております。それぞれ計4日間実施しており、研修4日目には県の技術企画課や営繕課に紹介いただいた施工中の公共工事現場に見学に行っております。

・三田建設技能研修センターでは、それぞれのキャリアパスに応じて受講できるように、様々なメニューの講習を取りそろえるようにしております。学生の親御さんは将来のことを心配されるが、三田建設技能研修センターと建設企業が協力し、入職後のキャリアパスを示していければと考えており、それを三田建設技能研修センターのセールスポイントにしていきたいと考えております。

・女性の受講者も増えてきております。現状トイレ等の環境整備は従来のままですが、今後より多くの女性受講者に来ていただくために、環境整備を検討しております。

・入職者の問題だけでなく、離職者が多いように感じており、そのような問題について、企業側がほったらかしにしている部分もあるかと思えます。そんな中、三田建設技能研修センターで実施いただいていることは非常に大事であり、今後も継続していただければと思います。

・兵庫労働局のご支援を得て行っております「まちづくり業界研究大作戦」は、大学生、大学院生を対象に昨年度から実施しており、今年度も12月17日に神戸サンボーホールで開催します。当協会会員企業30社がブースを設置し、それぞれの会社の魅力を発信するとともに建設業界全体に興味を持ってもらうことで入職促進に繋げていきたいと思っております。

・出展30社が作成した動画を協会ホームページに掲載するほか、「地図に残る、“未来を創る”という使命—建設業で働くプロジェクトリーダーたち—」というタイトルの動画を作成し、協会ホームページやYouTube等に掲載しております。

・9月10日にはプレイベントを実施し、30校56名の方が参加されました。

・豊岡土木事務所作成の「但馬の若手建設技術者にワークライフバランスを聞いてみた」動画を見て、女性でもできる簡単な仕事があるといった発言があったが、様々なライフサイクルがある中で簡単な仕事だけでなく長くバリバリ働ける人材を求めています。また土日が休めるといった内容もあったが、実際は土日はどうやって休むことができるか考えている段階だと思えます。良いイメージを伝えることも大事ですが、入ってこられて食い違いが出てこないかなと感じました。

・12月末に開催している「兵庫県建設産業人材確保推進連絡協議会」にて、高校生に施工管理について知ってもらう、保護者の方に理解していただく、小中学生に建設業の魅力を発信していく、最新の情報技術を使って情報発信をしていく、といった意見がありました。また働き方改革を含め

発信する中身の魅力が大事です。入職してから仕事を続けてもらうためには、建設業界に入った人が充実した人生を送ってもらえるにしなければならないと思います。単に魅力発信だけでなく、本当に意味で魅力アップを図っていかなければならないと思います。

・働き方改革により企業の業績や生産性を圧迫しているのが実情だと思います。しかし電業協会会員企業で、これまで求人を出してもなかなか入職者がいなかったのに、完全週休2日制を掲げたところ、学生を含む複数名の入職があったと聞いております。生産性と休日を両立するのは難しいですが、それも否めないのかなと感じております。

・労政福祉課では、ワークライフバランスに関する業務を担当しております。また、入職促進という点では、製造業においても建設業と同様の課題がありますが、製造現場では重たい物を運ぶ作業や設計等の業務の切り分け、細分化を行うことで女性が入職しやすくなるような取組を別の課で進めています。入職の入口を広げつつスキルアップしていく中で、将来的には別業務でも働いてもらうというのが理想かと考えております。

・最近の大学生は就職活動をする際に、週休2日はマストとの考えをしております。また甲南大学の先生が仰っていましたが、最近の大学生は社会貢献、地域貢献できる仕事をしたいと考えているとのこと。以前は企業利益を上げ、給料をもらい、お金を遣うことが社会貢献に繋がると考えておりましたが、現在は初めから社会貢献を求めている学生が多く、社会貢献が全く見えない企業には興味を示さない傾向があります。建設業は地域貢献が目に見えやすい職業かと思いますが、これからは社会貢献、地域貢献を全面に出していかないと入職者が確保できないということ意識しなければならないと感じております。

・高校生においても求人票を見る際に週休2日は当たり前となっており、必要な要件だと思っております。また1人あたり5社程度学校指定の企業があるため、生徒にも甘えがあるように感じております。私は「社会で貢献できる人材の育成」を教育目標としております。ただ今の高校生は中学生の時からコロナ禍の影響で学校に通えてないこともあり、人と人とのコミュニケーションであったり、自分がどうあるのかという価値観が高校生レベルに達していない生徒が多いです。

・高校での3年間で社会に出られるように厳しく教育しておりますが、今の18歳は今まで以上に幼いです。仕事ができるようにするというだけでなく、本当の意味で社会人に育てるところを企業にも考えていただければと思います。

・今年度も三田建設技能研修センターや建設業振興基金にご協力いただき、「はじめての建築設備コース in 兵庫」を実施することができました。実施10日間のうち5日間を設備に特化した講習を行い、研修から就職あっせん、比較的容易な資格も取得できる内容となっております。また実習では、水道やガス、冷媒の配管の試作品を作成し、実際に検査まで行い、参加者に持ち帰ってもらっております。令和4年度で事業終了と聞いておりましたが、来年度も事業継続予定とのことですので、実際に講習に参加された方が入職していることから、引き続き取り組みを考えていきたいと思っております。

・第1回協議会で松田委員や矢部委員から、現場の厳しさや生の姿を見せることが大事というご意見があったこともあり、9月に豊岡総合高校の生徒を対象に実施した出前講座では、豊岡総合高校の卒業生である土木事務所の職員が説明をしたり、建設会社のベテラン技術者から現場の厳しさを説明していただきましたが、まだ1回きりのため引き続き行っていくことが大事だと感じております。またDX等の施工技術による施工の効率化により週休2日制へ取り組んでいることの説明を行い、より現場の生の姿が見ていただけたのではないかと思います。

・11月には兵庫工業高校の生徒を対象に、三田で施工中のバイパス工事の見学を実施しました。そこでも兵庫工業高校卒業生の県職員と地元の建設業者の方に説明していただきました。現実を知っていただくことも大事ですし、現場の状況がどんどん変わっていていることを伝えることも大事だと思いますので、今回の協議会で話のあった現場の生の声を反映しながら、より有意義な出前講座等を実施できるよう取り組んでいきたいと思っております。

・今年度より兵庫工業高校HPの校長室ページにて、学校に来ていただいた卒業生の活躍や卒業生からのメッセージ等を掲載しております。これからどんどん卒業生の活躍や声を届けていきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願ひいたします。

・電業協会においても、若年層の入職促進に向けた紹介ビデオを作成中です。若者や女性を起用したり、アニメを使用することで、若者目線での業界の紹介ができるものになることを期待しております。

・日本電設工業協会主催の日本電設工業展が令和5年度関西で実施を予定しております。新製品等の展示会となっており、関西での実施時には県内の工業高校生を招待しております。これまでも生徒の移動時に使用するバス代の一部を兵庫県の方で助成していただいておりますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

・入職するまでの入口部分も大事だが、企業として本業を伸ばしていくと共に従業員を成長させていくといった入職後の企業の取り組み方も重要です。これまでは、それぞれが高校・大学等で学び、入社後は一定期間OJTを行い終了といった企業が多かったですが、今後は技術革新にしっかりついて行き、企業の稼ぐ力をつけていくために学び直し（リスキリング）をしていくことが必要だと思います。それをいかに従業員に理解してもらいやりがいを感じてもらうか、またそれに加えて、従業員が満足できる賃金や休暇を与えられる企業が成長し生き残っていく、従業員から選ばれていくようになっていくかと思っております。

・現在の兵庫県の有効求人倍率は1.04倍ですが、建設分野については未だに4.62倍となっております。そのためハローワークにおいても、業界団体等にご協力いただき、セミナー等にて建設業の魅力を知っていただく等、入職の入口部分に取り組んでおります。建設業についてより知っていただくことが入職促進に向けて重要だと思いますので、各種団体等にご協力いただきながら引き続き魅力発信に取り組んでいきたいと思っております。

・第22回高校生ものづくりコンテスト全国大会の測量部門で兵庫工業高校の都市環境工学科3年の女子生徒が優勝し、国土交通大臣賞を受賞しております。また第17回若年者ものづくり競技大会の木材加工職種で西脇工業高校の生徒が金賞を獲得し、厚生労働大臣賞を受賞しております。

・建築・土木に関する学科へ先端機器を少しずつではありますが導入しております。これまで先生方に指導いただいている学校内での5S活動や手書きの図面等、アナログ的な学びも大切にしながら、先端技術を学ぶ機会も設けていただきたいと思います。

・学校においても世代交代が進んでおり、生徒に建設業の技を指導する先生が減少しております。県では「ひょうご匠の技」探求事業で、技能継承等を継続するよう教員研修を実施しているところです。生徒が先生の技術や考え方に触れ、ロールモデルとして憧れの存在になることが理想だと思いますので、今後も各部会から講師の派遣依頼等がありましたら、ご支援の程よろしく願いいたします。

・出前講座やインターンシップ等多数ご支援をいただいておりますが、単に新しい技術を体験するだけでなく、仕事の本質であったり、責任ややりがいを引き続き伝えていただければと思います。但し、最近の学生は厳しくしすぎると離れていく傾向があります。危険なポイントや学びの軸になるような箇所は動画を用いたり、またICT等で伝わらない緊張感や肌で感じる危機管理意識は現場で伝えていただく等、働くということについて大人目線でご指導いただけると幸いです。

・当社では採用試験において、「土日休みには向かっているものの、状況によっては出勤することもあり、その際には振替休日を取ってもらっている」と伝えております。現状では完全に土日休みであると言うと嘘を言うこととなります。採用試験では上記のように伝えておりますが、それでも高校生には毎年入職してもらっており、全員が残っていただいているわけではないですが、一定数の方には長く働いてもらっております。

【閉会挨拶】

●土木部次長（会長）